



KIFA Plaza

鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第67号

2010年(平成22年)3月26日
 発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
 〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
 TEL 047-445-1141 (内550)
 FAX 047-441-9400
<http://www.kifa.gr.jp>

新たに「日本の家庭料理」を学び楽しむ

KIFA外国家庭料理講習会

KIFA交流部会主催の「2009年度・外国家庭料理講習会」が2月14日(日曜日)10時から、東初富公民館で開かれました。今回の講習会は「これまで実施してきた外国人による外国家庭料理講習会」から趣向を変え、外国人の方に「日本の家庭料理」を新たに学んでいただき、その味を楽しんでもらうことになりました。講師には日本料理研究家で、KIFA会員の堀優子さんをお願いしました。



日本料理の堀先生(円内)と太巻きずしを巻く受講生たち



講習会には中国15人、フィリピン3人、バングラデシュ3人、スリランカ2人、台湾1人、韓国1人、ブラジル1人の計26人の外国出身者のほか、中国残留邦人4人も参加しました。

調理室にて。堀先生の実演と説明

今回のお料理のメニューは(写真左から)太巻きずし、きんぴらごぼう、さばの味噌煮、けんちん汁、の4品です。参加者全員に料理レシピが配られました。けんちん汁→さばの味噌煮→きんぴらごぼうの順に、堀先生は調理の手順とポイントの説明をします。

4台の調理テーブルに講習生が各7~8人に分かれ調理開始です。それぞれに、ごぼうのヒゲを削る、きざむ、にんじんの皮をむく、かんぴょうを茹でる、さばの身を切る、厚焼き卵を作るなど、分担作業でお料理ができていきます。5人の男子受講生は、手より口の調理(指示)が得意のようです? やはり女性陣は手際よく手つきもサマになっています。

具が揃うころには、堀先生から太巻きずしの実演説明がありました。またたく間に太巻きができあがりです。外国人たちからは、その見事さに感嘆の声が上ります。さあ、今度は自分たちで巻く番です。すだれを広げ、ノリを敷き、ご飯を盛り、かんぴょう、卵焼き、でんぶを細長

く並べていきます。途中で崩れてしまったり、太さがいびつになったり、巻き方がゆるかったり、みな苦心しながらも太巻きが完成しました。細いの太いのありましたが、包丁で輪切りすれば立派な巻きずしの顔になっています。

太巻きは講習生のほぼ全員がトライし、一本ずつ作り上げました。

調理室は炒め物・煮物の味見をする人、できた料理を皿に盛り付ける人、お料理の匂いが漂っています。きんぴらごぼう、さばの味噌煮、太巻きずし、けんちん汁と料理が完成してきました。そして順々にパーティ会場に運ばれて行きます。

パーティ会場にて。話も弾んで…

パーティ会場の大きなテーブルには、できあがった4品のお料理が並べられました。そのほか手巻きずしや中国のお菓子、まんじゅう、みかん等たくさんあります。パーティのみの出席者を含め50人を超す参加者、子どももお母さんと一緒にうれしそうです。料理の味も量も大満足の様子で話も弾んでいます。

(パーティの模様とアトラクションの「各国の結婚式の様式や慣習等」については、KIFAホームページで詳細をご覧ください)

2009年度 KIFA 語学講座合同閉講式

各講座の特色を生かした
発表会に拍手

2009年度のKIFA語学講座合同閉講式が2月11日(木・祝祭休日)、総合福祉保健センター大会議室で開催されました。



研修部会の小河原大蔵さんの司会でセレモニーは進行し、各講座講師の講評のあと酒井哲郎KIFA会長から皆勤賞が授与されました。

皆勤賞受賞者(写真上)は=〈英語A〉山村弘幸、石橋真澄〈英語B〉入野恵子、堀優子〈中国語〉長島綾子、藤原万喜子、吉田稔〈ハングル〉小川恵子、柳好美、赤塚登美子、畔蒜真理子の皆さんです(敬称略)。

セレモニーのあとは、各講座の特色を生かした受講生の発表会です。トップバッターは〈英語A〉の英語の歌3曲。ジェスチャー付きの「Head And Shoulders」はなかなかの熱演でした。

次は〈子ども英会話教室〉で学ぶ29人のキッズたちが登場。ノア・ウィルソン先生の指揮で、「How's the Weather?」と「What's the Matter?」を合唱しました。

3番目の〈中国語〉は中国・青海省民謡「草原情歌」を二胡演奏に合わせて、原語での歌唱。藤原万喜子さんの弾く二胡の妙なる音色が会場に響きわたりました。

続いて〈ハングル〉受講生20人の発表。「釜山港に帰れ」や「千の風になって」などおなじみの歌を、きれいなハングルで聴かせてくれました。

最後は〈英語B〉です。授業風景を舞台と客席に設定し、英語劇が展開されました。

この日の語学講座合同閉講式には、受講生87人、語学講師、KIFAボランティアなど26人が参加しました。

学習の成果を見てください



英語Aは英語曲を披露



キッズも元気に合唱



二胡で歌う中国語

講師と受講生「楽しい1年間の成果」を語る

【英語A】変化に富む自由な雰囲気

Kristen Cother先生 「講座を担当して楽しかったです。生徒は英語に真剣に取り組み、よくガンバッテくれました」

◎星野則子さん「学生時代、英語が大の苦手でしたので、初めの1、2回はドキドキでした。ところが学校の授業とはまったく違い、席もレッスンも毎回変化に富み、なぞなぞ、パズルなどの方法で学ぶ、自由な雰囲気はとても楽しかったです」

◎平野真弓さん「毎回ヘンな英語を披露しては、反省の繰り返しでしたが、一緒に勉強した皆さんの熱意には、多く学ぶものがありました。語学だけでない素晴らしい経験もさせていただきました。またチャレンジしたいと希望しております」

【英語B】聞き取りやすいイアン先生

Ian Jelley先生「素敵なクラスを持ってラッキーです。今日の発表会では食べ物、人格の表現、日記などを通して英語のスキルをお見せできた、彼らの成果を讃えたいと思います」

◎入野恵子さん「とっても聞き取りやすいイアン先生に支えられ、楽しい1年でした。読む、話す、聞く、すべてを網羅した授業は、テキストも全編英語で高度でしたが、勉強になりました」

◎竹内圭子さん「初めての受講でしたが、英語の独特な言い回しや、表現方法に何度も目からウロコでした。会話って、自分の考えをどう伝えるかが大切ですね。クラスの雰囲気もよく、先生のステキな声にも魅了されました」

【中国語】ネイティブな言葉に接する

胡丁毅先生「新入生たちも、在校生と同じように、学期末には上手に話し、言葉を理解できるようになりました。一生懸命習得しようとする受講生に接し、私も楽しい1年でした」

◎岡鉄海さん「北京出身の先生を通じて、ナマの、本物の中

国文化に接することができ、毎週が楽しみでした。自分でいうのもナンですが、すこしずつ中国語が分かりかけてくると予習復習も以前より力が入ります」

◎長島綾子さん「主人の中国出張の機会が増えたのが、私の中国語学習のきっかけです。胡先生の美しいネイティブな発音を学び、意欲がいつそう強くなってきました。この前、上海に旅行したとき買い物をしたのですが、役立ちました」



ハングルでハモル



英語寸劇の英語B

(円内は担当の講師)

【ハングル】韓国が好きになる

イム・ジウン先生「日本に来て7年ですが、皆さんと別れて日本を去ることになりました。KIFAの講座で出会い、一緒に勉強できたことが一番の思い出であり、感激的なことです」

◎金子満代さん「大好きな俳優に少しでも近づきたくはじめたハングルです。先生から語学だけでなく、韓国人の生活ぶりや、習慣、歴史、食べ物などの話をたくさん聞いて、ますます韓国が好きになりました」

◎鈴木治夫さん「思えば小学校にユンくんやペクさんがいたし、88年のソウル五輪では観戦を夢見ていました。KIFAの講座を知って、お隣の国の言葉を習う機会を得ました。いずれ彼の地を訪ねて、ハングルを実践してみたい今日この頃です」

KIFA
講演会

好奇心と失敗の繰り返しが天才を育てる

「天才エジソンを育てた母の教え」ヘンリー幸田さん

天才を育てる秘訣を教えます——国際特許法の権威で、エジソンの研究者でもある国際弁護士・ヘンリー幸田さんの講演会が、平成21年11月29日(日)に中央公民館視聴覚ホールで研修部会の主催で開かれました。好奇心と失敗の繰り返しが成功の秘訣だと、ヘンリーさんは実例をあげながら話し、教育を受けている子どもたちはもちろん、人生の半ばに達している人たちにも、実に有益な講演でした。以下、その主な内容をお届けします。

ヘンリー幸田氏略歴 米国弁護士。特許法(知的財産法)の権威。エジソン発明品のコレクターで知られています。ラテン音楽、シャンソン、フラメンコ鑑賞、真向法など多彩な趣味の持ち主です。



本来勉強とは楽しんで学ぶもの

日本の大学を経て米国でロースクールに学びました。担当教授から、あらゆることについて「なぜ、Why?」攻めに合い、考えることの重大さを教わりました。勉強とは「勉めて強いる」という漢字を当てています。辛くて苦しいというイメージですね。私もそう思い込んでいました。おかしいとは思いませんか。

例えば音楽は「音を楽しむ」でしょう。私自身、大学までは勉強が嫌でした。米国のロースクールに入ってから、学ぶことは楽しいことと知り、今では勉強大好き人間になっています。

米国勤務時代、友人からプレゼントされた1880年代製の、エジソンスタイルの蓄音機がありました。最初は壊れていると思いましたが、しかし雑音は入っていますが、しびれるような心に響く音が保たれていて感動でした。エジソンという人は、ありとあらゆるものを発明しています。ミシン、コーヒーマーカー、トースター、アイロン、パーマネント、謄写版、映写機、電球など、羅列してみると驚くべきものです。

私はエジソンに魅せられて蒐集に励み、今や3000点以上のコレクションを所有しています。ほとんどが今でも立派に使えるのです。これは凄いことです。たった一人の男が、これだけの発明を成し遂げることが出来たのはなぜだろう、このことからエジソン本人に興味を持つようになりました。

子どもの好奇心を育てる教育

エジソンの幼少時代。小学校では悪戯好きの子どもで好奇心の塊りでした。なぜ空は青いのか、朝顔の種はなぜ花になるのか、人はなぜ空を飛べないのか、なぜ魚は溺れないのか。1+1はなぜ2なのか、2つの粘土を一緒にすれば1つではないかなど、「Why? Why?」の塊りでした。

教師がネをあげて3カ月で放校されてしまいます。以降、母のナンシー・エジソン(元教師)が家庭教師を務めます。ナンシーはエジソンの疑問に対して、頭から否定するというをしなかったのです。「なぜ?」に対して一緒に考える方式で、知的好奇心が旺盛な子どもに対して、身をもって疑問に答えてあげました。

目端の利く子どもだった

エジソンはこの頃開通した鉄道に、大いに興味を持ちました。新聞の車内販売を扱うペーパーボーイになります。折りしも南北戦争の時代でした。エジソンは通常100部(買取方式)の新聞を扱うところ、新聞社のマネージャーと交渉し、信用売りをしてもらって1500部注文しました。始発のデトロイトから行き先の各駅に、戦死傷情載せた新聞を届ける電報を打ちました。最初の駅で3セントで100部以上売れました。次の駅では5セントで100部以上売れました。次の駅では10セントと値上げしていき、最終駅では25セントに跳ね上がったといいます。エジソンはこれで150ドル稼いだのです。現在の約260万円。12歳の子どもが一晩で稼いだのです。

先入観がなかったから成功

23歳のとき、電報と印刷機を一体化した電信機を発明しました。それまでは受け手が筆記して受信内容を書いていました。エジソンの電信機は受手側が無人でも印刷できる画期的な発明でした。ある電報会社がい取りを打診してきたので、付け値させたところ、4万ドル(8億円)で売れたのです。こうした金をエジソンはすべて次の発明に注ぎ込みました。

電球はエジソンの発明としてあまりにも有名です。それまでは一瞬しか光らなかったものを、長時間持続させるためにフィラメント素材の開発に取り組みました。最初は白金、次に炭素素材を手がけました。1万回以上の失敗をし、14000回目にやっと成功しました。このときの素材に日本の真竹が使われたことは有名です。ここでエジソン語録でも最も有名な「私は失敗したことは一度もない、1万回もうまくいかない方法を見つけただけだ」という言葉です。

日本の教育は間違えないように、失敗しないでいかに成功するか、という教え方が主流でしょう。本来は、失敗を重ねて成功に辿り着くことに価値があるはず。エジソンは「私には教育がない、だから成功した」と、よく話していました。学歴がなく余計な先入観がなかったから、何にでもトライすることが出来たのでしょう。

私はエジソンのこうした歴史を知って、失敗を恐れなくなりました。(4面に続く)

チャレンジが人生を豊かにする

(ヘンリー幸田さん講演) 続き

輪投げの論理を実践しよう

皆さんが、エジソン式に子どもを育てるには、どうしたら良いのか、良く知られている輪投げの論理を紹介しましょう。

輪を10回投げのことを考えて下さい。10回先に目標があったらどうでしょう。まず入らない。不可能と思えて諦めてしまうでしょう。

1回先の目標だったらどうでしょう。入りすぎ、つまらなくて止めてしまうのではないのでしょうか。3回先はどうか、2~3回は入るでしょう。次に5回、7回と伸ばしていくのです。このステップを繰り返していくと、10回先の目標も2~3回は入るようになります。この手法を生活に採り入れていけば、不可能と思える目標もクリア出来るようになるのではないのでしょうか。

年齢に関係なく試してほしい

輪投げの論理は、年齢に関係なく実践できます。半信半疑かもしれませんが、ぜひ試してほしい。例えば、今すぐに二階に飛び上がれといったら、誰でも不可能ですね。でもハシゴがあれば、容易に二階に行けますね。普通、皆さんが持っている課題に、具体的なハシゴは見えない

訳ですが、何らかのハシゴを自分で考えて、見出していくことが重要なのです。

何かにチャレンジして2~3回失敗すると、だいたい人は諦めてしまいませんか。しかし懲りずに5回、10回と続けていくと、質の転換が起こってきます。見えなかったハシゴが見えてくるのです。

私はいま66歳です。今年からフラメンコを始めました。笑わないで下さい。輪投げの論理を実践し、2~3年後にはデビューするつもりです。本気ですよ。

輪投げの論理は子どもたちにはもちろん、有効な教育法ですが、年齢には関係なく実践可能だとは思いませんか。皆さん、遠い夢と思えることでも、今日から、明日から実践してみたいかがでしょう。

☆ ☆ ☆

好奇心とチャレンジが、人生を豊かにするという、ヘンリーさん。実に自信に満ちた説得力を持った講演は、会場の熟年者たちにも勇気を与えたようでした。著書(写真)も3人の聴講者にプレゼントしていただきました。



お知らせ

(詳細は事務局にお問い合わせ下さい)

◆2010年度KIFA総会

鎌ヶ谷市国際交流協会の「2010年度総会」が5月23日(日)10時から、総合福祉保健センター大会議室で開かれます。会員各位にはご出席をお願いいたします。

◆2010年度「語学研修講座」受講生を募集します。

右の表のように4講座が開かれます。

◆スマイリーキッズ(子ども英会話教室)募集

対象学年=小学校1・2年、3・4年、5・6年の3クラス。
各クラス10人・期日=5月22日(土)~2月5日(土)
全25回・募集締め切り=4月23日(金)

◆ワカタネ青少年ロングステイ説明会=5月23日(日)

☆KIFAもかなり制度疲労を起こしているな、と実感させられた1年でした。ボランティア活動とは何なのかということ、メンバー一人一人が再考する必要があります。幸い、KIFAの将来を原点に立ち帰って、多文化共生社会を推進する鎌ヶ谷市の今日を踏まえ、新たな視点から討議する場が出来たので、大いに期待したいものです。(関矢忠良)

☆あたりまえのことですが、ボランティア活動には、いろんな考えの人が参加しています。なにかコトが起こったとき(なかにはコトだてるムキもなくはないですが)、みんなが「虚心」に、「丸腰」で知恵を出し合い、ベターな解決策を見つけ出すしかありません。そうです。KIFAの「F」は「Friendship」であり、「Fighting」ではないのです。(林幸治)

☆KIFAの活動状況や行事内容を自分の「目」や「耳」を通し忠実に記事化してきました。読者の方がこれを見て、それを思い出し、何かを感じ、「KIFAの一員で

編集後記

あって良かった」となれば、広報委の一員としてこの上ない喜びです。(木下健治)

☆昨年から広報委員として活動しています。KIFAの活動を通して、外国人と日本人の先輩方と交流し、よい刺激を受けています。今後はHP作成の引き継ぎをし、より見やすく充実した内容にしたいと思います。KIFAに来たことのない外国人の方たちに、足を運んでもらえるように今後も頑張ります。(山中航介)

☆今年が国民読書年です。いま新聞・出版・書店業界に革命が起こっています。読書といえば、紙に印刷されたページを繰りながら、活字を目で追うスタイルでした。ところが電子出版が主流になると紙がなくなります。書店から本が消えていきます。アナログからデジタルへ。メルマガ広報誌の時代も近いのかな。09年度はこの5人と、体調の都合で今回寄稿を見合わせた河村武さんを含め、6人のメンバーで「KIFAPLaza」の編集を担当しました。(竹内雄二)